

株式会社 日高振興公社

決算書類

第 25 期

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

株式会社 日高振興公社 第25期 事業報告

1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済をみると、実質GDP（国内総生産）成長率は一進一退を繰り返し、外需が減速感を強める中、景気は踊り場を迎えています。また、雇用・所得環境は改善傾向を持続しつつも、失業率は低下し、労働需要は引き続きひっ迫しています。それに伴い、賃金の伸びがやや高まる中、個人消費や設備投資といった内需の高い伸びが外需のマイナスを補うかたちとなりました。

一方、但馬地域に目を向けてみると、交通網の拡張により、北近畿豊岡自動車道が延伸し、利便性が良くなる中で、道の駅「やぶ」が近年の営業悪化により、今年2月28日をもって閉店しています。この自動車道は2020年度に（仮称）豊岡南ICまで延伸することが決定しています。これにより現在の終点である日高神鍋高原ICは通過点となり、日高町への入込数の減少が想定されることから、さらなる対策を講じる必要があると考えます。

また、この冬は暖冬による雪不足のため、神鍋高原スキー場の入山者は、昨年を大幅に下回り8万9千人（4万5千人減）となりました。特にアップかなべは2万8千人（2万6千人減）、営業も2月18日までと大変厳しい状況でした。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、様々なイベントの実施や神鍋高原のおみやげ開発などに取り組んで参りました。

また、従業員の職務能力向上を図るため、兵庫県道の駅巡り、他府県の事業所訪問やコンサルタントの指導、地元企業との連携強化により、イベント集客・ランチビューフェの演出・店舗展開（坪単価・客単価アップ）等、「個性ある道の駅作り」のために研修を行いました。

毎月開催している社員会議では、各部門ごとに経費実態・新規イベント計画・新商品開発・設備投資計画等、勉強会を適時実施しました。様々な取り組みを行いましたが、道の駅「神鍋高原」の来店客数は129,479人（前年度：144,262人）となり、14,783人減少しました。

また、「神鍋温泉ゆとろぎ」の入館者数は69,483人（前年度：78,109人）と、8,626人減少する結果となりました。

結果、当事業年度における業績は、

売上高	194,725千円	（前年度比：92%	18,116千円減）
営業利益	2,395千円	（前年度比：97%	76千円減）
経常利益	4,109千円	（前年度比：77%	1,197千円減）
当期純利益	3,898千円	（前年度比：77%	1,197千円減）
		（前年度：5,094千円）	となりました。

(1) 道の駅「神鍋高原」

① 売店部門

今年も客単価アップ及び利便性の向上を求め、ショッピングカートを導入し、店内のレイアウトは余裕を持った動線・通路の確保を行いました。また、レジ袋削減の為、ストアテープを利用し、紙袋は有料化を実施しました。レジ袋もロゴ印字タイプと無地タイプを併用し、コスト削減に努めました。屋外では「イチゴ・スイカ」などの農産物や「新米まつり」などのイベントのぼり旗を多数購入し、誘客に努めました。

新しい取り組みとして、冷凍魚の干し物販売や冬のスキー客に向けて、雪遊びグッズコーナーを新設し、商品を充実させました。イベントでは町内では珍しいお菓子のお店を集めた「かなべスイーツベール」を開催し、大変賑わいました。

また、地域連携として、北部農業技術センターのご協力により、「下仁田ねぎ」と「岩津ねぎ」を交配させた新品種「神鍋ねぎ」を試験栽培し、12月に収穫・試食販売を行い、次年度は生産量を増やし、特産品として販売する準備が整いました。

さらに、下記の商品を道の駅「神鍋高原」でしか購入できない商品（PB商品）と位置付け、他店舗との差別化を図りました。

- キャベツチップ 年間販売数： 5,500 個 売上金額：2,500 千円
- キャベツカレー 年間販売数： 1,100 個 売上金額： 520 千円
- キャベツコロケ 年間販売数： 1,000 個 売上金額： 100 千円
- 神鍋素材ジェラート年間販売数： 360 個 売上金額： 155 千円
(イチゴ・リンゴ・スイカ)
- ほんまもん神鍋 年間販売数：11,800 個 売上金額：7,700 千円

② 飲食部門

「全但バス神鍋線利用促進イベント」を開催し、「神鍋フェア」と称した鍋イベントでは、昨年につき、醤油で有名な花房商店（竹野町）と企業連携を行い、オリジナル鍋のコース料理を提供しました。さらに、日高農林産物加工研修所の利用促進として、手作り味噌教室を行い、初開催ながら次回開催への要望がありました。

平日の集客に向け、昨年度から実施した地元食材を使用した「但馬牛肉そば」を定番化しました。販売数量580食、売上金額550千円となり、麺類の中では一番人気の料理となりました。また、次年度に向け、平日の集客に繋がるメニュー開発を行っています。

土、日、祝日のランチビュッフェでは、客数16,000名、売上金額17,000千円となり、昨年より客数630名、売上金額530千円と僅かですが増加しました。

また、毎月定休日を設けた効率的な運営は、経費削減に繋がる一方で、定期的な清掃・点検日とし、衛生面にも、目配りができる環境となりました。

③ 神鍋温泉ゆとろぎ部門

地域連携による季節湯を実施しました。4月は但東チューリップまつりのチューリップ湯をはじめ、菖蒲湯やゆず湯など、見た目も香りも楽しんでいただくことができました。

また、長年ご協力いただいている「スキーリフト券」利用者割引（7,491名利用）をはじめ、平成28年から行っているフォレストアドベンチャー奥神鍋（457名利用）、パラグライダースクール（88名利用）、全但バス但馬ドーム（198名利用）と提携した割引サービスは非常に効果がありました。

本年度の新たな取り組みとして、3月に15枚綴りの特別回数券を数量限定販売し、リピーターに向けた購入促進サービスを行いました。7月には顧客の動向調査のためのアンケートを実施し、花の苗をプレゼントしました。

また、9月からは平日の営業開始時間を12時から13時へ変更し、経費削減に努めました。さらに、温泉専門コンサルタントを入れ、入浴以外のお土産やガチャガチャなどの商品を強化したほか、バスタオルと入浴券等をセット商品として販売しつつ、マッサージ機の増設や無料エクササイズのアイテムを設置しました。

広告宣伝では、HPやFBは基より、毎月「神鍋ほっこり通信」を町内6,000部、村岡区1,900部の折込チラシを配布したり、店外では「テレビ付きサウナ」や「女性専用メイクルーム」など、利用者目線を意識したのぼり旗を立て、誘客に繋げました。

2 事業実績

売上高の推移

単位：千円

区 分	第 23 期	第 24 期	第 25 期
売店部門	120,993	125,684	116,322
飲食部門	40,755	41,477	36,015
温泉部門	39,808	41,654	38,382
市受託料	4,077	4,026	4,006
合 計	205,633	212,841	194,725

営業成績、財産状況の推移

単位：千円

区 分	第 23 期	第 24 期	第 25 期
経常利益	1,926	5,306	4,109
当期純利益	1,715	5,094	3,898
総資産	32,137	39,231	37,761
純資産	16,204	21,299	25,196

3 会社の概要

(1) 資本金

資本金	36,000,000 円
-----	--------------

(2) 株式の状況

発行済株式総数	720 株
うち豊岡市保有分	400 株

(3) 役員の状況

役職名	役員名
代表取締役	笠 原 泰 藏
専務取締役	久 田 喜三郎
取 締 役	岡 藤 泰 明
取 締 役	小 谷 士 郎
取 締 役	岡 森 且 哉
取 締 役	原 清 美
監 査 役	小 林 辰 美
監 査 役	廣 田 勝 彦

(4) 社員（従業員）の状況

区分	人数	構成
社 員	5	男性 3 人、女性 2 人
パート	15	男性 2 人、女性 13 人
計	20	男性 5 人、女性 15 人

決 算 報 告 書

第 25 期

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

株式会社 日高振興公社

兵庫県豊岡市日高町栗栖野59-13

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 日高振興公社

平成31年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 32,990,444】	【流 動 負 債】	【 12,564,951】
現金及び預金	29,709,933	買掛金	1,272,988
売掛金	358,033	受託未払金	2,641,668
商 品	398,288	未 払 金	6,328,014
原 材 料	457,401	預 り 金	24,981
貯 蔵 品	400,590	法人税等充当金	213,200
未 収 入 金	1,666,199	未 払 消 費 税	2,084,100
【固 定 資 産】	【 4,770,898】	負債の部計	12,564,951
(有形固定資産)	(4,770,898)	純資産の部	
建 物	3,697,325	【株 主 資 本】	【 25,196,391】
建物付属設備	277,110	[資 本 金]	[36,000,000]
車両運搬具	2	[利 益 剰 余 金]	[Δ10,803,609]
工具器具備品	584,041	利益準備金	9,000,000
一括償却資産	212,420	(その他利益剰余金)	(Δ19,803,609)
		繰越利益剰余金	Δ19,803,609
		(うち当期純利益)	(3,897,827)
		純資産の部計	25,196,391
資産の部計	37,761,342	負債・純資産の部計	37,761,342

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

株式会社 日高振興公社

科 目	金	額
【売 上 高】		
売 店 売 上	116,321,271	
市事業委託料等	4,006,264	
レストラン売上	36,015,473	
温 泉 売 上	38,382,428	194,725,436
【売 上 原 価】		
期首棚卸高	1,447,207	
仕 入 高	81,351,843	
材 料 費	15,011,071	
合 計	97,810,121	
期末棚卸高	855,689	96,954,432
売 上 総 利 益		97,771,004
【販売費及び一般管理費】		95,376,204
営 業 利 益		2,394,800
【営業外収益】		
受 取 利 息	853	
雑 収 入	1,714,501	1,715,354
【営業外費用】		
雑 損 失	1,200	1,200
経 常 利 益		4,108,954
【特別損失】		
固定資産除却損	2	2
税引前当期純利益		4,108,952
法人税等充当額		211,125
当 期 純 利 益		3,897,827

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 平成30年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 平成31年 3月31日

科 目	金 額
役員報酬	4,313,800
給料手当	31,835,656
福利厚生費	6,466,942
雑給	7,332,021
シルバー委託費	2,383,348
広告宣伝費	2,368,231
運賃	79,472
燃料費	6,077,250
衛生費	6,995,406
一括資産償却費	296,750
水道光熱費	10,895,129
会議費	82,994
事務費	1,312,450
消耗品費	3,296,072
地代家賃	38,100
支払保険料	535,390
修繕費	457,936
租税公課	4,498,600
減価償却費	984,652
接待交際費	396,171
旅費交通費	98,820
通信費	412,692
支払手数料	2,141,139
貸借料	1,597,410
諸会費	340,600
購読費	62,613
雑費	76,560
合 計	95,376,204

株主資本等変動計算書

株式会社 日商振興公社

平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

(単位:円)

	株 本		株 主 資 本				自 己 株 式	株 主 資 本 計 合	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	資 本 準 備 金	利 益 剰 余 金	利 益 準 備 金	其 他 利 益 剰 余 金					
当期首残高	36,000,000				9,000,000	△23,701,436	21,298,564				21,298,564
当期変動額											
当期純利益						3,897,827	3,897,827				3,897,827
当期変動額合計						3,897,827	3,897,827				3,897,827
当期末残高	36,000,000				9,000,000	△19,803,609	25,196,391				25,196,391

	利 益 剰 余 金 の 内 訳		利 益 剰 余 金 計
	利 益 準 備 金	利 益 剰 余 金 合 計	
当期首残高	9,000,000	△14,701,436	
当期変動額			
当期純利益		3,897,827	3,897,827
当期変動額合計		△19,803,609	△10,803,609
当期末残高	9,000,000	△10,803,609	

個 別 注 記 表

自 平成30年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 平成31年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品・貯蔵品 …………… 最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 …… 平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に
取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産 …… 定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 …………… 税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額 …… 34,550,024 円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数 …………… 720 株

当事業年度末日における自己株式の数 …………… 0 株

4. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額 …………… 34,994 円 98 銭

1株当たりの当期純利益 …………… 5,413 円 64 銭